

## 宮城県水門・陸閘自動閉鎖システムの運用開始について

### 1 背景

水門や陸閘が防潮堤と一体となって背後のまちを守るためには、津波が到達する前にゲートを確実に閉鎖する必要があります。しかし、東日本大震災において、これら水門・陸閘の閉鎖作業に従事した多くの水防団員等の方々が被害に遭った状況等を踏まえ、津波注意報発表時は避難することを原則としております。

そこで本県では、津波注意報や津波警報等の発表時に現地で人が操作することなく、安全かつ迅速、確実にゲートを自動で閉鎖するシステムを整備しました。

### 2 システムの概要

“宮城県水門・陸閘自動閉鎖システム”とは、気象庁から津波注意報、津波警報等が発表されると、その情報を各水門・陸閘へ伝達し、自動でゲートを閉鎖する仕組みです。

#### (1) 自動閉鎖される気象警報・注意報

水門・陸閘のゲートが自動的に閉鎖されるのは、【津波注意報／津波警報／大津波警報／高潮警報】が対象となります。

#### (2) システムの多重化

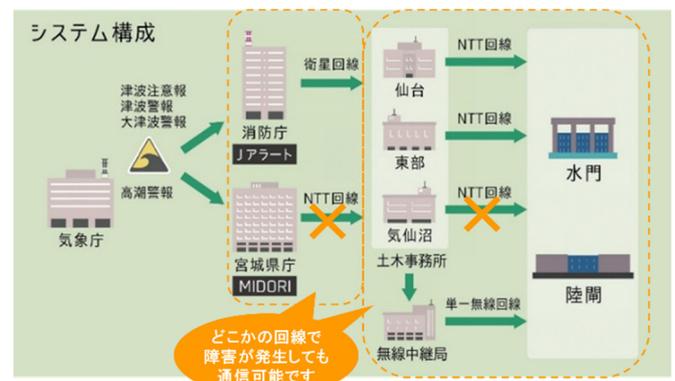
- 気象庁から発表された気象警報・注意報は、“全国瞬時警報システム（Jアラート）”と“宮城県総合防災情報システム（MIDORI）”を経由し、NTT回線と地震災害に強い無線回線から各水門・陸閘へ同時に閉鎖指令を出します。

- 3つの沿岸土木事務所から各水門・陸閘へ閉鎖指令を出すことができ、どこかの事務所が被災しても他事務所からの通信バックアップ体制が確保されています。

- 各水門・陸閘の通信施設には、商用と発電機の電源を備えており、停電時でも確実に稼働することができます。

#### (3) 安全周知設備の設置

- 水門・陸閘の動作時には、回転灯やスピーカーでゲートの閉鎖を周知します。
- 陸閘のゲートには、挟まれ防止装置がついています。完全にゲートを閉鎖するために、ゲートの周辺に車を止めたり、物を置かないでください。
- 陸閘のゲートが動き始めたら、挟み込まれる危険がありますので、ゲートを通り抜けようとせず、近くの階段等から避難してください。



陸閘（仙台塩釜港）

### 3 対象施設の運用開始時期

仙台塩釜港、女川港及び気仙沼港の陸閘23基について、令和2年6月12日より運用を開始します。今後も整備が完了した施設から順次、運用を開始していきます。

#### ◎ 津波防災について

水門や陸閘を閉鎖してもまちを守りきれない津波があります。地震が発生したら、沿岸にいる人はすぐに海岸から離れて、避難ビルや高台等、安全な場所へ避難し、自分の身を守ることが大切です。